



あけましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。皆様にとって良い年になりますように祈念します。

ぎふかれん理事長 山田偉雄

昨年11月ぎふかれん最大行事の30年度甲州・東海ブロック精神保健福祉促進研修会高山大会が盛会に開催出来ました。伊藤順一郎先生の講演や、シンポジウムの盛り上がりなど大変好評でした。飛騨圏域の皆さんには大変お世話になりました。また、関係者全員にお礼申し上げます。

JR等運賃割引要求問題で市町村への要請運動を展開しました。準備不足から数市の採択に留まりました。暮れには甲州・東海ブロックとして中日本高速道路KKへ、他障害者と同等な高速料金割引要請を行いました。良好な対応でしたが、解決には更なる運動が必要と感じました。全国では、大手私鉄の西鉄が、また、日本航空・全日空も割引が実施されることになりました。

県委託事業の「知ってもらいたい心の病」等の啓発事業を7月と12月に実施致しました。更に、今年3月に実施予定です。虐待、監禁事件などは論外にしても、障がい者家族でもまだまだ、病気への理解が不十分で、福祉資源につなげていない方もみうけられ、一般の方を含め啓発活動の重要性を実感しています。

障がい者の雇用では、県教育委員会は公的機関の雇用率の問題で、早急な障がい者の雇用を検討しています。精神障がい者の雇用もお願いしたところです。

なお、執行部体制が夏以降問題化し、苦慮致しましたが、ボランティアの方の助力で何とかブロック大会等の業務を乗り越え、今日に至りました。

残された課題として

- ①県大会と3回の啓発研修会の問題
 - ②執行部体制と雇用
 - ③各家族会の活性化
 - ③電話相談事業の強化
 - ④公共交通機関への要求
 - ⑤その他「ぎふかれん」の財政問題などがあり
- 猪突猛進ではなく慎重に検討したいと思います。ご協力下さい。



この機関紙は、岐阜県共同募金会のご寄付で作成致しました

平成30年度甲州・東海ブロック大会を終えて

岐阜県精神保健福祉連合会
副理事長 大下 恵子

平成30年度甲州・東海ブロック精神保健福祉促進研修会は、「社会的自立に向けた地域精神医療・支援の在り方」をテーマに、昨年11月9日、10日にJR高山駅西口に近い、高山市民文化会館を会場に行われました。両日とも好天に恵まれ、遠隔地にもかかわらず、山梨・東海四県を中心に予想を超える390余名の家族、当事者、ボランティア等がつどわれ、終始、関係者の熱気に包まれる中、大会はすべて順調に行われました。

最初の基調講演では、千葉県市川市で訪問医療を実践しておられる伊藤順一郎先生が、医療を中心に家族・関係者が連携し、精神疾患の心の表層と深層の関連性（「饅頭理論」）に留意しながら、オープン・ダイアログ（開かれた対話）により相手を理解し、共感し受け入れ、粘り強く回復への道筋を探っていくことの大切さを話されました。

続くシンポジウムでは、地元の須田病院の加藤院長などから、多様な自立支援事業の展開による、地域に開かれた、これからの新しい精神医療の在り方についての積極的な提言をいただきました。

そして、作業所・家族会・地域連携の三テーマによる分科会では、それぞれの立場からの実践事例を基に、一般参加者も交えながら、今ある社会資源をアウトリーチとしたリカバリーへの様々な方策についての討議がなされました。

大会に参加された方々からは、「当事者に向き合い、当事者を中心とした医療や生活支援の在り方について考えさせられた。」、「アウトリーチを広げるためには家族会からの働き掛けが何より大事と気づかされた。」、「障がい者にとっての自立や社会参加の意味について教えられた」などの感想が聞かれ、この研修会が当事者、家族、ボランティア、作業所や医療の現場に携わっておられる関係者にとって極めて意義深いものであったことを実感し、開催地家族会として大変嬉しく思っている次第です。

最後に本大会のために、終始温かいご支援、ご協力をいただいたすべての皆様方に深く感謝を申し上げ、誠に意は尽くしませんが、以上、ご報告とさせていただきます。



参加者 390名

参加者数

	宿泊	一般予約	当日	スタッフ	来賓	バザー	計
愛知	19	5	3				27
静岡	35	1					36
三重	33	2					35
山梨	12						12
岐阜	33	117	60	40	8	20	278
富山	2	1					3
計	134	126	63	40	8	20	391

スタッフ40人の内訳は、行政関係7人、関係機関20人、ボランティア13人
バザー出店数の内訳は、支援事業者5団体、家族会2団体

アンケート集計（一部掲載）

1. 集計総数 102通
2. 男女別数

性別	男	女	計
集計数	36	66	102
構成比(%)	35.3	64.7	100.0

3. 年齢別数

年齢階層	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
集計数	4	10	8	18	26	29	5	100
構成比(%)	4.0	10.0	8.0	18.0	26.0	29.0	5.0	100.0

<アンケート抜粋>

講演について

- 非常に良かったし、今罹っている病院の先生に聞いて欲しかった。今の精神医療は、個々の薬は有効だが多剤の服用による副作用が問題。この現状を改めて欲しい。(家族)
- 幻聴が有るたびに、こちらも苦しく直ぐ診療に行かせ、薬がドンドン増えたことがある。幻聴の苦しみを抱える本人の悩みに関わることなく、ただ体調等を気遣うだけだったが、人として豊かに生きるために家族として出来ることがたくさん有ると気づかされた。(家族)
- 日本の精神医療は入院中心だが、地域への移行（アウトリーチ）は内勤医ではなく外勤医を中心に、病院もグループホーム、デイケアなど福祉の分野に参入し、地域での自立した当事者生活出来るよう施策のスピードアップを図るべき。(家族)
- 本人も病院に行きたくない日が有るが、そんな場合にアウトリーチが有れば助かると思う。(家族)
- 回復には医療のみでなく、人の温かい心が必要と改めて実感した。先生の優しい人柄を感じた。(家族)
- 幻聴・妄想はただ消すのではなく、それらは本人の生の根本と深く結びついているのだから、むしろ活性化し、生の営みと関連して捉えたらどうかと思った。(当事者)
- 人として向き合って、安心して精神疾患に罹って、前向きに診療しつつ人生に楽しみを見付けて行ける、そんな地域精神医療を目指したい。(病院関係者)

シンポジウムについて

- 広い飛騨地方で、多くの患者を前向きな医療体制で受入れておら

れることを知り勉強になった。他の地域でも徐々にこうした取組みの病院が増えているようだが、今住んでいる地域では大学病院でもここまでは行っていないのではないかと。(家族)

- 家族会の支援者と共にアウトリーチの具体化についてシンポジウム等で話し合い、病院との協

議の場をつくって行きたい。(家族)

○従来、当事者・家族は行政に対し消極的だったが、これからは積極的に発言して行かなければ精神医療・福祉の進展は望めない。遅れた生活環境の整備は家族の責任と思う。(家族)

○加藤院長から病院改革を実施された経緯についての詳しい説明が有り、現在受診中の病院も変化の可能性を示唆されたようで今後に期待が持てた。(家族)

◆**第一分科会・テーマ：当事者の自立に向けた作業所の在り方。**

○メンバーのそれぞれの特性が生かされていることがいいと思った。無理をせず、本人が自分で決めて、自分自身に相応しい自力での自立。それぞれが自分を大切に生きていくことが本当に大事ですね。(家族)

○作業所に行けない当事者を抱えた家族に対し、家族会の一員としてどう支援して行ったらよいか分からなかったが、居場所として作業所を利用することを通して本人とつながる人が出てきたとの発表から、まず本人の意思で進めて行くことが肝要だと学ばせてもらった。(家族)

◆**第二分科会・テーマ：元気な家族会への挑戦。**

○普段医師から長時間、お話を聴講することは出来ないが、この度は丁寧に話して下さい、よく理解出来た。この計画をして下さった方々に感謝。(家族)

○家族会の活動の大切さを改めて感じた。どこも高齢化という現状の打破を目指しておられること、また職員(支援者)からの働き掛けも大切ということを知り、自分の立場でも出来る何かがあると思った。(職員)

◆**第三分科会・テーマ：地域とのつながりの大切さ、リハビリに必要な要素。**

○廣田さんの発表がとても分かりやすく良かった。発表者と参加者が共に話せる進行で、共有する時間が持てたことが良かった。

○それぞれのピアサポーターとしての思いがしっかり伝わってきた。苦労しながらも、しっかりした考えを持って活動しておられる様子がよく分かった。家族につながり、地域につながるという話に希望が持てる思いがした。しかし、まだまだ残された課題を多いと思う。(家族)

■**アンケートのまとめ(全体を通しての印象、感想等)**

○高速バスで来たが会場が駅から近く楽だった。準備下さったスタッフの方々に感謝している。参加すればしただけのメリットがあると思った。(家族)

○JR 高山駅に近く便利で、新しくなった高山のイメージが良くなった。また来てみたい。(家族、ボランティア)

<イベントの案内>

第33回「知ってもらいたい心の病 講演会」

と き：H31年3月1日(金) 13:30~15:30

ところ：ハートフルスクエアG 2階 大研修室
(JR岐阜駅 改札口を東に)

講 師：森 敏幸(清流障がい者就業・生活支援センターふなぶせ 施設長、
全国精神障害者社会福祉事業者ネットワーク代表)

内 容：「精神障がい者の地域支援を考える
～舟伏の活動から、当事者を主人公に～」

平成30年度第3回理事会

と き：H31年1月18日(金) 10:00~15:00

ところ：岐阜県福祉農業会館 2南会議室

ぎだい：甲州・東海ブロック大会の反省

来年度の計画等

・会員の方の傍聴をお待ちしています。

精神障害者にも航空運賃割引が適用 日本航空(JAL),全日空(ANA)など

	現行	適用拡大後	適用予定の時期
精神障害者	割引なし	等級の区分なく3障害全ての本人・介護人に適用	日本航空グループ 2018年10月4日～ 全日本空輸グループ等 2019年1月16日～
身体障害者 知的障害者	割引あり 本人・介護人の区分、 等級の区分あり		

「みんなねっと」は2015年6月から全日本航空事業連合会へ割引の要請を行ってきました。

「JRなど運賃割引推進ニュース」NO69号（H30年10月9日）より

精神疾患の記述の復活、40年ぶり高校保健体育の教科書に

2022年度から使われる高校の保健体育の教科書に、精神疾患の記述が40年ぶりに復活
「偏見の解消や早期発見につながる」と期待されます。（2019年度から先行実施）

東邦大医学部の水野雅文教授（社会精神医学）の話

躁鬱（そううつ）病や統合失調症などは思春期に発症する人が多い。

生涯に精神疾患にかかる人は6～7人に1人おり、75%は25歳未満で発病するとの報告もある。

例えば、統合失調症は発症して5年間の治療がその後を決める。早く気づき、専門機関を受診することが大事。

自分自身や周囲の健康のためにも、精神疾患の知識は欠かせない。

全国精神保健福祉会（みんなねっと）小幡恭弘事務局長の話

発症の第1ピークは14歳。中学生への教育も求めたい。

中央省庁の障害者雇用の水増し、3400人超

厚生労働省は8月、調査結果を公表した。

障害手帳などの証明書を確認していない職員を雇用率に算入していたのは、昨年6月時点で27機関の計3,460人に上る。平均雇用率は2.49%から1.19%となった。

岐阜県でも水増しあり。

県教育委員会では今後、約70～80名の増員の予定（話を聞きました。）

- ・事務局、県立学校、特別支援学校、市町村学校などで 非常勤の事務・作業補助員など。
- ・新規で校務補助員。
- ・新規で就労オフィスの設置

（障がい者数名と支援員2名を1チームとし、周辺校に派遣する。）

就労が長続きするよう、相談しやすい職場環境を整えて頂くようお願いしました。

第 11 回全国精神保健福祉家族大会 みんなねっと 兵庫大会

2018 年 11 月 26 日(月) 神戸ポートピアホテル
27 日(火) 神戸国際会議場

基調講演 「精神疾患を正しく理解するための教育の必要性について」
山田浩雅（愛知県立大学 准教授）

精神疾患に関する教科書の記述について

約 50 年前には「本人の同意がなく優生手術ができる」と記載。

1970 年代初めに「適切な理解が必要」と変わる。

1978 年度以降は記述自体がなくなった。

「教えないことが、精神疾患や精神障害者への差別・偏見の源泉」と批判。

不安などの初期症状は一般的なため、「病気の特徴を学んでいなければ、保護者も教員も本人も、状況や対処法分からないまま症状を悪化させてしまう」と説明。

欧州などの例を説明（予防、相談の必要性）

2022 年度から、高校保健体育の教科書に記述されます。（2019 年度から先行実施）

特別講演 「心の病とはなにか —物質と物質でないもの—」
糸川昌成（東京都医学総合研究所 副所長）

薬は脳は治療し、物語は魂を癒す。腑に落ちる物語が回復をもたらす。

脳は心の一部、尊厳や自尊心が大切。

薬だけに頼らない、心に働きかける治療を。

糸川先生の書籍「科学者が脳と心をつなぐとき～父と母と私が織りなす 50 年の物語～」

注文は、NPO 法人コンポのホームページ、又は、047-320-3870 へお電話を。

二日目は、6 つの分科会がありました。

延べ 2500 人の参加で活気にあふれた大会でした。

みんなねっと兵庫大会に参加して（一部のみ掲載）

山田 偉雄

基調講演では、小・中学校からの精神保健教育の重要性を力説されました。この分野での対策の必要性が実感できました。

特別講演では、自身の研究（難しい話題）を熱っぽく、分かり易く説明いただいた。

精神疾患には、「病気：モノ」と「体験と因果関係がある：コト」が含まれる。

薬は「モノ：脳」には効果があるが、「コト：魂」には効果がない。

例 当事者の長男が毎年、盆・暮れに入院していた。次男一家が帰省すると、両親は歓迎し、孫にプレゼントをあげていた。

医師などのアドバイスで。→ 長男が孫へのプレゼントをするようになった。

それ以降、長男は体調を崩すことがなくなった。

今年是全国大会が 11 月 7 日・8 日、愛知県刈谷市で開催されます。みんなで参加しましょう。

家族会・郡上つくし会の紹介

家族会について

齊藤武生（つくしの家 事務局長）

私は、3年前に「福祉の施設で働いてみないか」との誘いを頂いたことがきっかけとなり、福祉に携わるようになり、B型作業所「フレンドシップつくしの家」になりました。

私の勤める福祉施設は、郡上市大和町剣（地区）で、郡上市から指定管理を受けている就労継続支援（B型）で、精神障がい者が通所する「フレンドシップつくしの家」です。

私は、この施設にて精神障がい者・そのご家族の人達と接し、「障がい者の親亡き後の生活・地域での暮らし・心の病の今後・心の居場所の提供・就労の問題・施設に対する障害福祉サービス費の問題・悩み相談業務等」など、地域に溶け込み安心して暮らせるまでの多くの解決すべき課題があることを知りました。

私は、岐阜県精神保健福祉会連合会の理事会等に「フレンドシップつくしの家」家族会、会長代理として出席させて頂いておりますが、家族会が中心となってこれらの課題に対して連日ご活躍されていることも知ることが出来ました。そして、これらに対する国・県・市等の行政の諸施策の状況、また、その取り組み等は、まだまだの感じがします。

私は精神障がい者の立場を関係者のみでなく、社会全体に理解と協力を得つつ、家族会が一層団結し、これらの課題に取り組んでいかねばならないと思っています。

B型作業所「フレンドシップつくしの家」



◆つくしの家とは、こんなところですよ

心の病気をお持ちの方が安心して過ごせる居場所です

TEL 0575-88-4910

地域と共に生きる喜びの輪と絆づくりの場所です

FAX 0575-88-4917

自立と社会活動への参加、社会復帰をめざしています

ぎふかれんホームページのご案内

グーグル等から「ぎふかれん」と入力して検索してください。

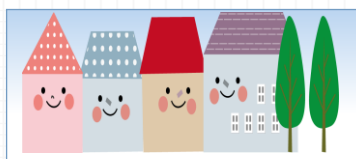
「家族による家族のための電話相談」

相談日 : 火・木曜日 (10:00~15:00)

電話 : 058-271-8169

携帯電話 : 090-6587-8169

個人携帯 : 090-6578-9838 (熊谷)

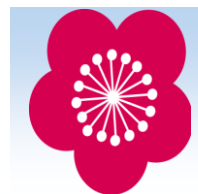


会員 (家族会員)、賛助会員及び ボランティアの募集

各地区の家族会は、会員の募集を致しております。

岐阜県精神保健福祉会連合会では、各家族会を会員としたNPO法人として、家族会相互のネットワーク推進により、福祉関連事業を行ない、地域福祉・医療の向上を目的としています。

本年度は、甲州・東海ブロック大会・高山大会を実施しました。また、福祉・医療関連講演会、電話相談事業、機関誌の発行等を行っています。ぜひ、会員や賛助会員として、ご援助お願い致します。



「ぎふかれん NO 62」に ブロック大会や講演会などの講演要旨の掲載を予定しています。

【 編集後記 】

今年度最大の行事、甲州・東海ブロック大会を終え、報告書を12月初旬に提出しました。

「ぎふかれん」誌の準備が遅くなり、ようやくお届けすることができました。これからもご協力お願いします。

— 編集担当者一同 —